



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2006. 5. 29

No. 29 - 41

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5 - 11 - 4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

61st IFALPA Annual Conference Istanbul 2006 全体報告

4月28日~5月2日トルコ・イスタンブールに於いて、IFALPA 加盟総数 87 協会の内、54 協会が出席し IFALPA 総会が開催されました。(実出席 52、委任状 2) 日本からは、IFALPA 本部役員である安藤真之機長初め、日乗連 Member 8 名と、日航乗員組合からの Observer 1 名が日本の乗員を代表し参加しました。この全体報告に続き、今年の IFALPA 総会で議論され、決定された各委員会の Topics などを順次お伝えしていきます。

トルコ政府：交通通信大臣が開会の挨拶

冒頭トルコ政府の交通通信大臣 (Minister of Transport and Communication) である Binali Yildirim 氏から、IFALPA 総会開催のお祝いと、『世界的な航空の安全な発達が必要であり、安全は妥協されるべきものではない。トルコ政府は ICAO の活動を支援すると共に、IFALPA やトルコ ALPA と協力し International Standard の実践を行なっていく』との力強い表明がありました。

トルコ国内では 2003 年にトルコ航空以外の航空会社の運航が認められたことにより、民間航空の使用空港が 9 から 29 に増加し、年間利用乗客数も 2003 年の 3100 万人から 2005 年には 5500 万人と急増しました。また、Working Condition や Flight Time Limitation などの Human Element が重要であるとの認識から、来年 Human Element に基づいた Civil Aviation Law の根本的な変更を行い、妥協の無い安全を目指すとのことでした。

モンゴル、セネガル、モーリタニアの IFALPA 加盟

今回の IFALPA 総会で、モンゴル国の Mongolian Air Line Pilots Association (2005 年 10 月 1 日現在: 64 名)、セネガル共和国の Syndicat Des Pilotes de Ligne Senegalese (2005 年 10 月 1 日現在: 25 名)、モーリタニア・イスラム共和国の Airline Pilot Association Republic Islamic of Mauritania (2005 年 10 月 1 日現在: 15 名) の 3 協会の IFALPA 加盟が新たに承認されました。これで IFALPA の加盟総数は 2006 年 5 月 2 日現在で 90 になります。

Mongolian ALPA の加盟に当たって、日本は First Sponsor として IFALPA 加盟の仲立ちを行いました。最近ではモンゴル出身の相撲力士も多く、日本との交流も各方面で盛んに行なわれています。昨年の中国に続き、また一つアジアの仲間が増えました。

Japan ALPA Scholarship Fund 1908 ユーロ増加

1997 年日乗連が IFALPA に加盟した際、日乗連分の IFALPA 会費で設立された Japan ALPA Scholarship Fund (設立当初 2500 ポンド) は、弱小協会の Member が事故調査などの技術力を
(次頁へ続く)



向上するための基金として使われて来ました。今までに3名が事故調査研修コースを受講し、基金が減ってきましたが、数年前から IFALPA 総会中に行なわれる Gala Dinner において Lotto (くじ引き) を開催し、その売り上げを Japan ALPA Scholarship Fund に蓄えるようになりました。昨年基金は約 3200 ポンドまで上がり、今回更に 1908 ユーロ (約 1325 ポンド) の Lotto の売上が計上されました。弱小協会の今後の技術力向上に貢献する事が大いに期待できます。

IFALPA と ECA : European Cockpit Association は Protocol を締結

昨年の IFALPA 総会において、今後の IFALPA 活動をより活性化するために、世界を5つの地域 (Africa & Middle East, Asia & Pacific, Caribbean & Americas, European, North America) に分け、各地域の活動を活性化することで全体の活動を更に盛り上げて行こうという、IFALPA の構造改革案が承認されましたが、ヨーロッパの Pilot Group は、以前から存在している ECA をヨーロッパの地域組織として継承していくことにしました。これからは各地域の独自性がある程度認められて行く訳ですが、IFALPA 総会で採択された IFALPA Policy の範囲内で活動していくことを確認するために、IFALPA と ECA は Protocol (協定) を締結しました。

日本が所属する Asia & Pacific Region では、今回地域の代表は決まりましたが、まだ明確な地域の組織は出来ていません。詳しくは「Asia & Pacific Regional Meeting 報告」でご報告しますが、今後ステップ・バイ・ステップでゆっくりと発展していく事が確認されています。

日本とトルコの深い繋がり

日本とトルコ共和国とは、明治時代のある事件以来大変深い繋がりがあります。明治 23 年 9 月 16 日、和歌山県南端の大島でトルコ軍艦エルトゥールル号が台風で遭難しました。島民の懸命な救助と、島民が自らの食料を全て投げ打って献身的な介護をおこなった結果、600 名余りの乗員の内 69 名を助けることができました。台風で何日間も孤立した小さな島にとって 69 名の外国人の救援は大変な事でした。この事実はトルコの教科書に記載されていて、トルコ人なら誰でも良く知っている事だそうです。(日本でも第二次大戦前までは教科書に載っていたそうです)

また、イラン・イラク戦争の最中、時のイラク大統領が『48 時間後にイラン上空を飛ぶ全ての航空機を撃ち落す』と宣言したため、各国はイランにいる自国民を脱出させるために救援機をテヘランに向かわせました。しかし、日本は素早い決定が出来なかったため、テヘランに 215 名の日本人が取り残されてしまいました。そこへトルコ政府が差し向けたトルコ航空機が 2 機舞い降り、215 名全員を救出し成田に向かいました。1985 年 3 月 17 日、タイムリミットの 1 時間 15 分前の事です。『エルトゥールル号の事故に対する献身的な救助活動をトルコの人達は忘れていません』と駐日トルコ大使は語っています。小泉首相が先ごろ中東アフリカ諸国を訪問した際、トルコでお礼を述べましたが、それはこの時のトルコの人達の熱い気持ちに対してでした。

この時運航を行なった Captain はすでに退職し、現在 Istanbul から南に離れた所に居られるとの事で、今回残念ながらお会いする事は出来ませんでした。Turkish ALPA の会長に、日本の乗員を代表してお礼を伝えて頂く様にお願いしました。